

< 特 集 >

1980年代から1990年代にかけての構造地質学の課題

木村克己・シンポジウム世話人会

1987年12月22・23日の冬の例会で、上記のタイトルでシンポジウムをおこなった。同シンポジウムは、当時、1992年のIGC日本開催に向けてIGCプログラム委員会がIGCでのシンポジウムのテーマを検討している時期にあたり、構造地質学分野の研究の動向と今後の課題を明らかにし、IGC構造地質分野のシンポジウムテーマについて意見を交わすことを目的にして企画された。本特集は、その時の要旨を中心にまとめたもので、いくつかのものは、今回文章を書きあらためて図表・文献を補充している。また、狩野ほか及び卯田の両講演の内容は本会誌に原著論文として掲載されている。

シンポでは、現在日本列島での研究で主要な課題と考えられるもののうち、8つのテーマをとりあげ、各テーマについて2ないし3の講演を準備した。構造地質分野でこのように広範囲にわたって研究の総括と今後の展望を討論した

ことはわが研究会においても始めてであり、今後の研究の指針になるものと期待できる。ここにとりあげられたテーマのうち、4つのものについては、その後例会でのシンポジウムでさらにつっこんだ討論が行われ、わが研究会会誌の特集として33号(大規模剪断帯テクトニクス)、34号(付加テクトニクス)、本号(地震断層と断層破壊過程)とそれらの成果が公表された。現在36号がプリアパート堆積盆特集として準備されている。

シンポジウムでとりあげたもののうち、少ないテーマが1992年のIGCシンポジウムにおいても討議される。本シンポジウムで明かにされた今後の課題についての研究が進み、IGCシンポジウムが実りあるものになれば幸いである。

下記に当日のシンポジウムのプログラムを掲載する。

シンポジウム「1980年代から1990年代にかけての構造地質学の課題

—1992年IGC日本開催に向けた構造地質学の役割と展望」

はじめに—世話会の主旨説明—

鈴木尉元, 角田史雄, 伊藤谷生, 小玉喜三郎, 木村克己, 尾崎正紀, 佃 栄吉

1. 1992年IGC構造地質分野のシンポジウムテーマについて

—プログラム準備委員会の経過・現状と予定— 吉田鎮男(東大)・植村 武(新潟大)

2. 堆積盆の形成機構の諸問題

横ずれ断層運動にともなう堆積盆の形成

宮田隆夫(神大)

